

備陽史探訪の会四月バス例会

歴史紀行、平家の盛衰と石造物を訪ねる旅

大田庄の歴史と石造物

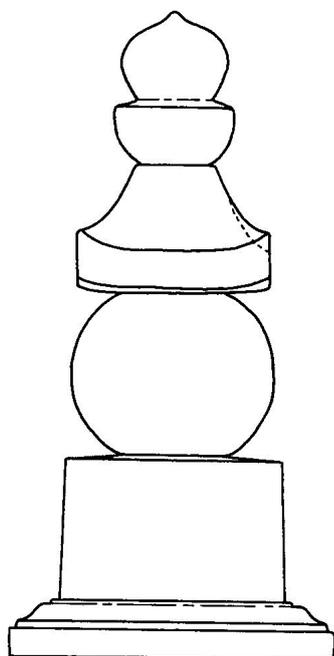


図3. 佐藤昭嗣氏作図から

今高野山塔の周五輪塔

講師 田口義之会長

平成二十四年四月十五日実施

スケジュール&主な見学地

- 八時
福山駅北口発
- 九時
尾道松江道「世羅インター」通過
- 九時半
廃光明寺寶篋印塔（総高2、44坪の世羅郡を代表する寶篋印塔） ※トイレ
- 十時
廃万福寺跡（中世の寺院跡で、県重文の七重石層塔や寶篋印塔、五輪塔等多くの石造物がある）
- 十一時半
神田第二号古墳（終末期古墳で、石室は半壊しているが「石扉」を持つこと有名）
- 十二時
今高野山（ここで昼食、県重文の粟島神社鳥居・境界石など多くの文化財がある） ※トイレ
- 十三時半
中原永安寺古石塔群（永安寺跡一帯に散在していた石塔を地元住民が整備、五輪塔や寶篋印塔からなる）
- 十四時一五分
久代城跡（大田庄の預所として権勢を振るった久代氏の本拠、応仁の乱で西軍に攻められ落城した）
- 十四時半
久代谷石造五輪塔群（暦応二年【一三三九】銘の五輪塔等多数の石造物があり、久代一族の墓石と考えられる）
- 一五時
鳳林寺古石塔群（室町戦国時代、この地の山城主であった下見氏、湯浅氏の石塔が残る。中でも湯浅氏の墓石は戦国時代の寶篋印塔の代表的なものである） ※トイレ
- 一六時
八田原ダム（トイレ休憩）

注意事項

- 一、団体行動ですので事務局の指示に従ってください
- 二、ごみは各自でお持ち帰りください
- 三、体調を崩された方は直ちに申し出てください

《資料①》『芸藩通志』

世羅郡祠廟 寺院

今高野山（割注真言宗以下同）

甲山町にあり、愛染院龍華寺とよぶ。伝云、弘仁十三年、僧空海開基。もと七堂十二院あり、天正の頃、八院廃して、今、四院存す、金剛寺、安樂寺、成道院、福智院、是なり、愛染院龍華寺も、また彼の八院の一なりしが、今は、一山の総称となれり、七堂も、とく廃して、今、求聞持堂、層塔楼門の址のみ存す、応永後、四たび火災を経て、旧記什物、多く亡ぶ、今、所存、金鈴一口、仏像一体は、空海唐土より取来るもの、又空海、自画の肖像、五銚三銚の類あり、南紀高野山の旧記に、備後国大田庄は、高野山の領たりとあるよし、又傳云、文治三年、後白河法皇の御願にて、高野山大塔、修法僧の料に、備後国大田庄を布施し給へりし所、当寺の僧徒ども、年々貢物を妨げければ、紀の高野より怒りて宝物など、皆奪取れり、故に、彼の地の宝蔵には、今高野山、龍華寺と款せしものありとぞ、東鏡を按に、仙洞の御願にて、大田庄を、供料に寄せられ、又乃其対捍等のこと、右の傳へいふ所と、大同小異なり、されば大田庄は、高野の所領たるによりて、此の寺を建て、高野に疑せしなるべし、今猶藩より蔵米五十石を給て、一山を扶持せらる、安樂院二十石、其余三寺、各十石を受となり、

廢万福寺、西光寺址 並に堀越村にあり、万福寺址には、高一丈余、幅四尺五寸、七重の石塔あり、銘に、応安三年
戌八月二十三日とあり

《資料②》「萩藩閩録」卷四十六小寺忠左衛門十三号文書

井上与三左衛門

見玉三郎左衛門

国司雅楽允

永末越中守殿

小寺十郎左衛門殿

元景

態々申し候、万福寺堂供養として、此具足惣毛 袖緒浅黄 遣わされ候、早々供養御調へ肝要の由候、仍敬秀御追善として、俵物四十俵之を進らすべきの由候の条渡し申し候、委しく此の仁申さるべく候、恐々謹言

(天文十六(一五四七)三月二十三日)

元景 判

就忠 判

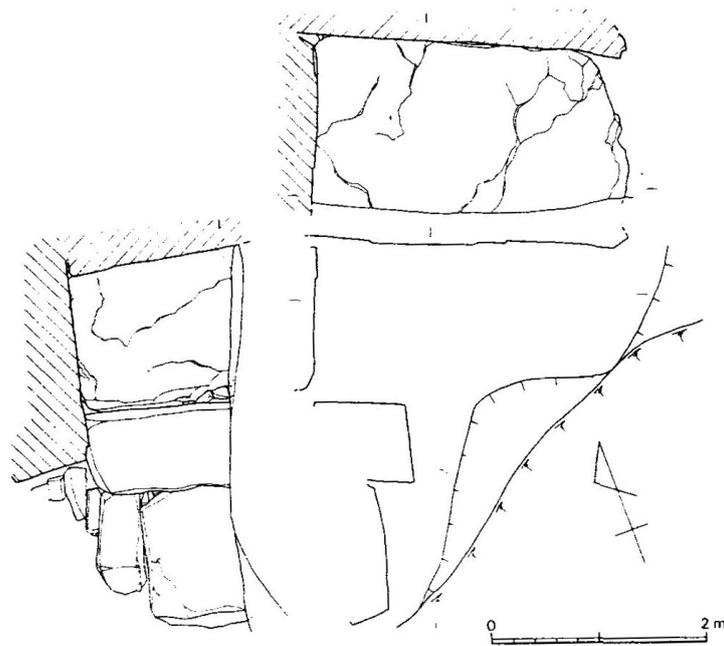
就信 判

永末越中守殿

小寺十郎左衛門殿

御宿所

《資料③》神田第二号古墳(「探訪広島古墳」より)



△横穴式石室実測図(『芸備』第18集より)
右半分は崩壊している。

《資料④》久代城跡関係

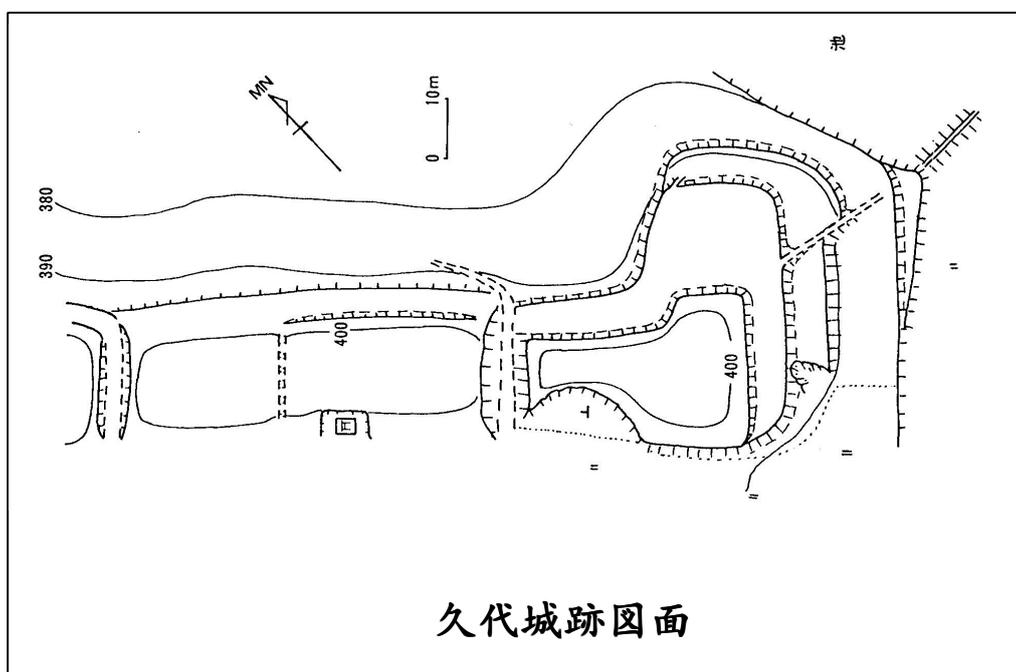
「山内首藤家文書」一二四号

今度久代要害に於ける合戦の時宜、備後守注進到来候、大慶此の事に候、今に於いては、外郡の儀も悉く落居候哉、目出候、一向奔走に依って此の如くに候、忠節是非なく候、いよいよ以後の儀毎々油断なく調法致され候はば肝要に候、備後守国の儀無案内たるべく候、心底残さず意見加えられ、申し合わされ候はん事然るべく候、其の由備後守方へも申し下し候、返す返す済々の御陣神妙の至りに候、恐々謹言

八月二十四日

宗全 花押

山内新左衛門尉殿



久代城跡図面

木全敬蔵「甲山町内の中世城館」より

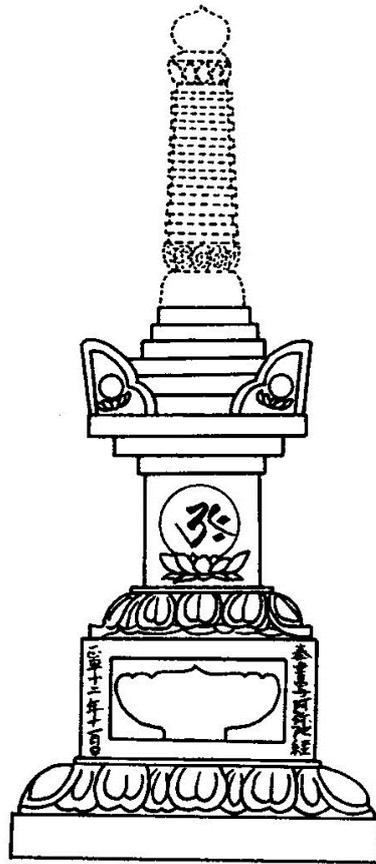
《資料⑤》古石塔（出典は主に蔵橋純海夫「広島県の古石塔」）



廃万福寺塔婆（写真と拓本）



万福寺跡「正平銘」寶篋印塔



万福寺跡大仙社跡五輪塔

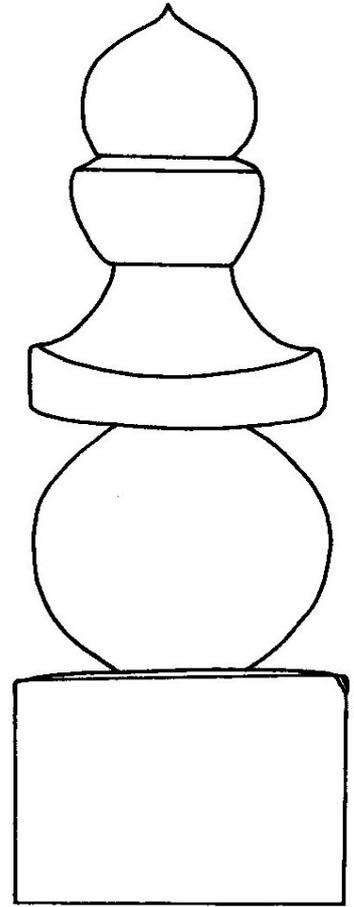
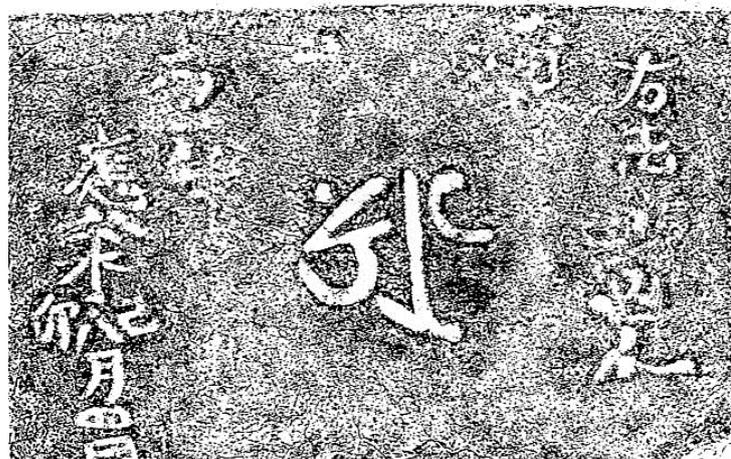


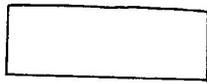
図 2. 同右復元図



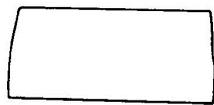
万福寺大仙社跡五輪塔拓影

《資料⑤》古石塔造立の時代の見分け方（蔵橋純海夫「広島県の古石塔」より）

基礎の変遷
(側面図)



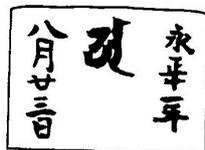
平安時代末期



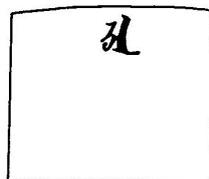
鎌倉時代中期



鎌倉時代後期

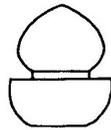


室町時代後期

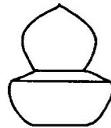


江戸時代

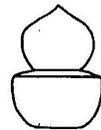
宝珠部の変遷



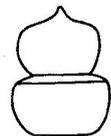
鎌倉時代前期



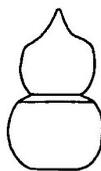
鎌倉時代後期



南北朝時代



室町時代

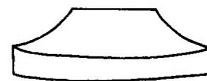


江戸時代

笠部の変遷



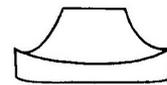
平安時代末期～
鎌倉時代前期



鎌倉時代後期



南北朝時代～
室町時代前期

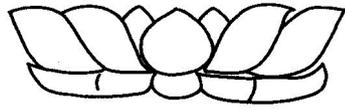


室町時代

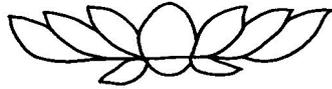


江戸時代

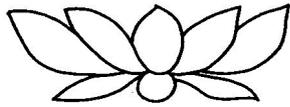
蓮弁の変遷



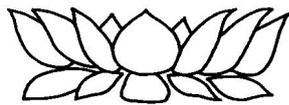
鎌倉時代



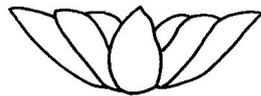
鎌倉時代後期



南北朝時代

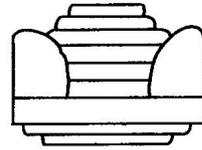


室町時代後期

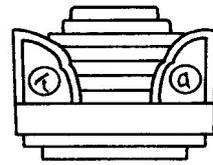


室町時代末期

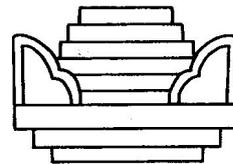
笠部の変遷



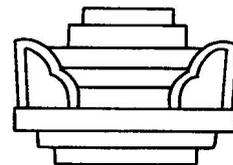
鎌倉時代中期



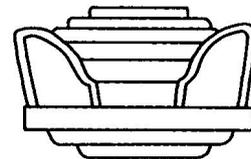
鎌倉時代



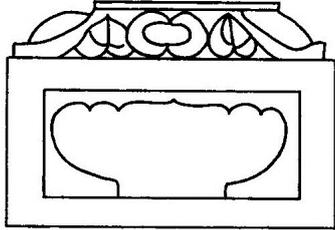
鎌倉時代後期



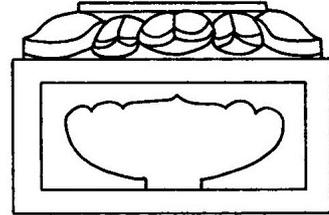
南北朝時代



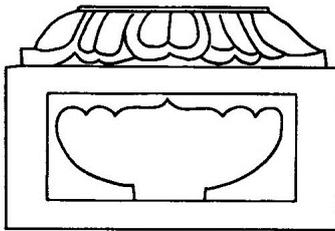
室町時代



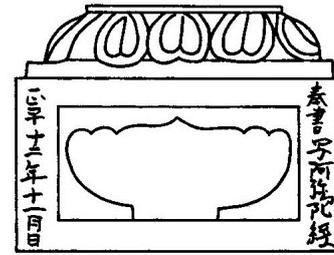
貞治三年 (1364)



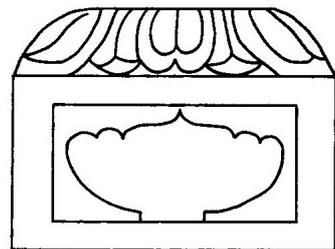
元応元年 (1319)



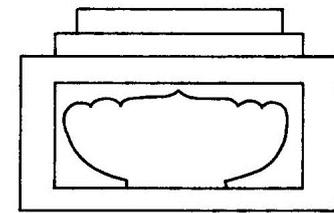
永和四年 (1378)



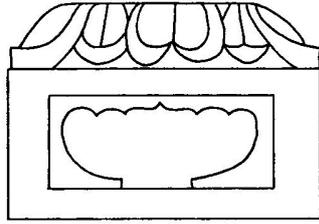
正平十二年 (1357)



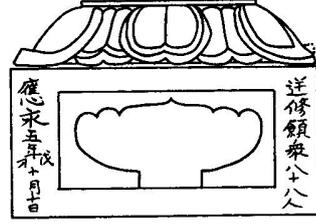
康暦二年 (1380)



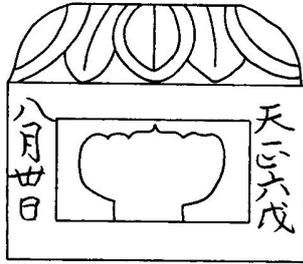
延文二年 (1357)



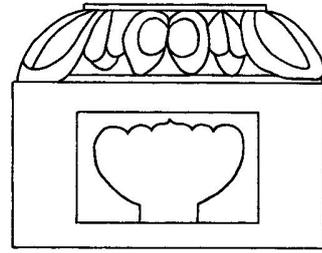
天文十六年 (1547)



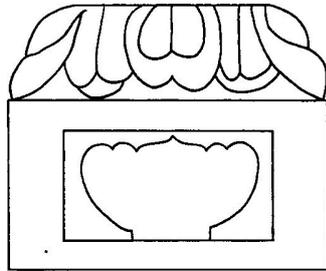
応永五年 (1398)



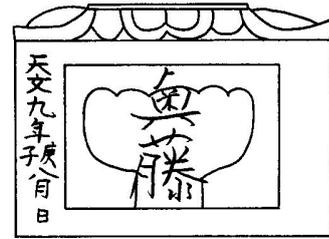
天正六年 (1578)



文安四年 (1447)



慶長三年 (1598)



天文九年 (1540)

関 係 年 表

久安2年(1146)	世羅郡の橘氏が所領を平重衡に寄進する
永万2年(1166)	平重衡が世羅郡の所領を後白河法皇に寄進(大田庄の成立)
文治2年(1186)	後白河法皇が大田庄を紀州高野山に寄進する
建久3年(1192)	源頼朝、征夷大將軍となる
建久7年(1196)	橘氏改易され、三善康信が大田庄の地頭となる
永仁5年(1297)	久代淵信、大田庄預所として権勢を振るう
元弘3年(1333)	鎌倉幕府滅亡
暦応1年(1338)	足利尊氏、室町幕府を開く。 今高野山に結界石が建つ
暦応2年(1339)	久代谷に在銘の五輪塔が建つ
正平11年(1356)	廃万福寺在銘寶篋印塔
応安3年(1370)	廃万福寺塔婆
康暦2年(1380)	粟島神社鳥居
明德3年(1392)	南北朝の合一
応永6年(1399)	廃万福寺大仙社五輪塔
応永9年(1402)	大田庄守護請、守護山名氏の支配下に入る
文明3年(1471)	この頃、「久代要害合戦」
明応9年(1500)	この頃、和智氏が大田庄に入り「上原氏」を称す この頃、湯浅氏、伊尾の尾首城に拠る
天正10年(1582)	上原元将が毛利氏を裏切り没落
天正13年(1585)	鳳林寺在銘塔婆「岩秀浄井禅定門」
慶長5年(1600)	関が原合戦



備陽史探訪の会 事務局

〒720 - 0824 福山市多治米町5 - 19 - 8

TEL&FAX 084 - 953 - 6157

E-メール b-tan-kai@009191.com

公式ホームページ

<http://www3.plala.or.jp/big-eye/>